

3. 自然環境の保全

目標指標 西山の森林の CO₂吸収量

令和2年度の目標	令和2年度の結果
1,517.00 t-CO ₂ 以上	1,536.17 t-CO ₂



(1) 西山の保全・再生・活用

① 西山の森林整備

森林整備面積（竹林含む）

令和2年度の目標	令和2年度の結果
延べ 312.00 h a	延べ 311.94 h a



森林整備とは、森が健全に育ち、地下水の保全などの機能を維持していくために行うものです。間伐と言って木を間引いたり、枝をはらったりして、木の成長を助けます。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。令和2年度は5.21 h aの整備を実施し、延べ311.94 h aとなりました。

◎過去5年間の森林整備面積の推移（延べ面積）



森林整備面積のうち利用間伐面積

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
延べ 12.5ha	延べ 11.95ha

長岡京市では、森林を整備して出た木材等を利用する「利用間伐」を進めています。平成 23 年 11 月には、「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」を策定しました。

令和 2 年度実績としては、利用間伐はありませんでしたが、過去に行った利用間伐の在庫から、テーブル、ベンチ材、ネームプレートを作成しました。

※間伐とは…健全な森林育成のために樹木を間引くこと。



西山産材を使ったテーブル

②西山の生態系の保全

モニタリング 1000 里地調査の支援

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
調査項目 3 項目	調査項目 3 項目

環境省が実施するモニタリングサイト 1000 里地調査に、市が参画する西山森林整備推進協議会として参加しています。この調査は、全国の数多くの場所で統一した方法により、各種生物の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして鳥類、チョウ類、植物相の 3 項目の調査を実施しています。哺乳類については、令和元年度まで調査を行っていましたが、担い手不足などから、令和 2 年度から調査を停止しています。



③西山の有効活用

西山キャンプ場の有効活用

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
老朽化した付帯設備等の修繕と関係課等との活用方法の検討	老朽化した付帯設備等の修繕

令和 2 年度は、老朽化により腐食や壊れのある橋と、泥の詰まりにより外れた水道管を修繕しました。今後も、西山キャンプ場が生涯学習や環境教育の場として有効に活用できるよう、維持管理に努めます。



④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
組合員数 104 人	組合員数 102 人



西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営、森林整備活動、研修、イベント参画などの活動を支援しました。

(2)竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林整備面積

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
延べ 23.00 h a	延べ 23.17 h a



西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、住宅地に近いため、放置されると通行を妨げ、森林に侵入して竹林が広がっていくこともあります。

そのため、森林の整備の一環として竹林の整備も行っています。今後も引き続き、平成 27 年 4 月に改定した西山森林整備構想における最優先課題として、竹林整備に取り組んでいきます。

②竹の利活用の調査研究

竹粉・竹チップの累計活用量

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
累計 100m ³	累計 74.1m ³



多くの竹林を持ち、タケノコを特産物とする乙訓 2 市 1 町（向日市、大山崎町、長岡京市）では、伐採された竹の処理方法が共通の課題です。

平成 29 年度は、防草剤として竹チップを活用するなどしましたが、平成 30 年度～令和 2 年度と利用がありませんでした。放置竹林問題の解決のためには、持続可能な方法で安定的に竹粉・竹チップが活用できる仕組みを確立する必要がありますが、竹チップの防草材としての品質や費用、効果の持続性に課題があることが分かりましたので、新たな敷設が困難な状況です。引き続き、竹の利活用の方法を検討していきます。

(3)環境にやさしい農業の推進

①低化学肥料農業等の推進

有機栽培に対する補助金の交付

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
300 千円／年	300 千円／年

特産品の花菜^{ほしろう}の圃場に使用する有機栽培のためのたい肥購入に補助金を交付しています。現在、長岡京市の農家で栽培している花菜は、平成 2 年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、平成 17 年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。



花菜（はなな）

②市民農園の充実

シルバー農園の運営

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
利用者数 188 人 (最大定員)	利用者数 163 人

長岡京市では、高齢者の生きがいづくりのために 60 歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を運営しています。

市内 3 カ所の農園で、163 人の方が利用されています。利用者の健康増進と農地の有効活用のためにも、今後も継続的な運営を行っていきます。



③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取り組みの充実

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
学校給食納品額 1,000 万円	学校給食納品額 967 万円

令和 2 年度からは、長岡京市の全小中学校で、地元産の野菜を給食に使用しています。特産の花菜、ナス、タケノコなども提供されており、子どもの食育の面からも効果をあげています。



④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の活用

令和2年度の目標	令和2年度の結果
遊休農地 9.2ha以下	遊休農地 13.6ha

長岡京市の農地は、令和2年度末現在で243.3haあり、そのうち13.6ha（5.5%）が遊休農地となっています。

遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。遊休農地の発生を未然に防ぐため、農地パトロールを行い、耕作が不十分な農地については、市の農地銀行制度や国の中間管理機構への紹介や農業委員を通して貸し手借り手のあっせんを行い、担い手への集積を行っています。

※農地銀行制度とは…農家間で農地の貸借を円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介する。



(4)水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

令和2年度の目標	令和2年度の結果
参加者数 280人	参加者数 270人

河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付しています。近年、集中豪雨などにより水路などが氾濫する危険もあります。地域の方による日頃の清掃活動やボイ捨てをしないなどの行動がまちを守ることにつながるため、今後も引き続き支援を行います。



②ホタルの保護と育成

ホタルの人工飼育の実施、小泉川流域での河川清掃 ホタル保護育成の市民啓発

令和2年度の目標	令和2年度の結果
ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋 観賞のタベ、 捕獲防止パトロールの実施	ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋

長岡京市を流れる小泉川には、昔からホタルが生息していますが、開発等の影響もあり、数が減少していました。そのため、長岡京市では「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や人工飼育を行って、ホタルの保護と育成に取り組んでおり、近年はホタルの数が増えてきたのではないかとされています。観賞のタベと捕獲防止パトロールについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。



4. 快適な都市環境づくり

目標指標 住民一人あたりの公園面積

令和2年度の目標	令和2年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.32m ²	住民一人あたりの公園面積 3.32m ²



(1)身近な緑の保全・創出

①まちなかの緑の創出

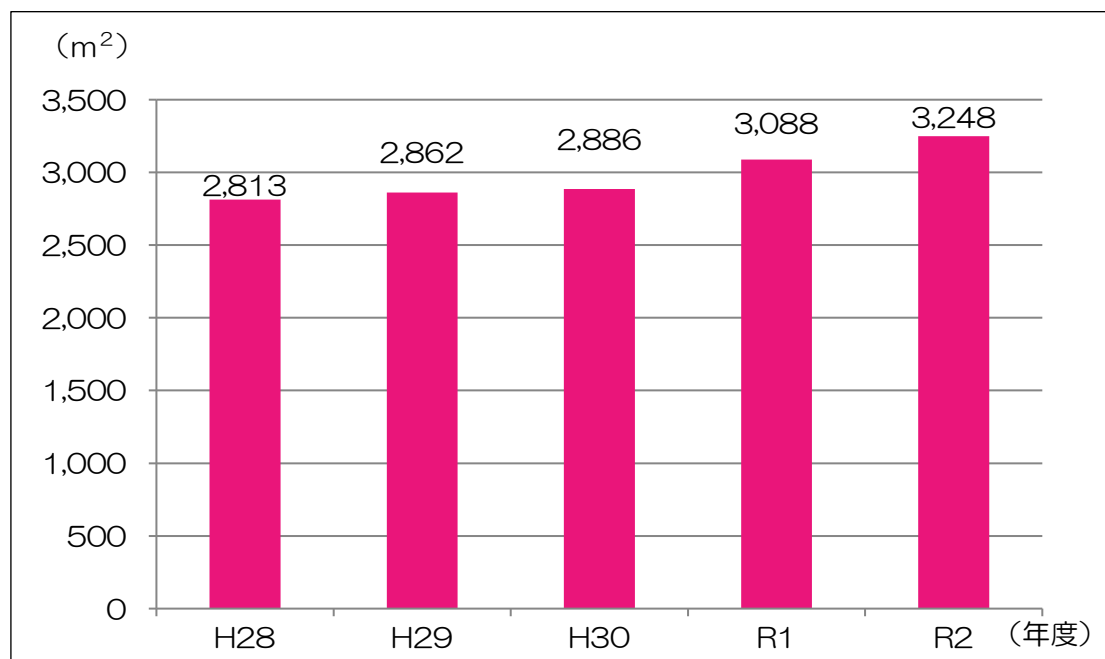
まちなかの公共空地等に植栽

令和2年度の目標	令和2年度の結果
まちなかに創出した緑被面積 累計 3,000m ²	まちなかに創出した緑被面積 累計 3,248m ²



緑の基本計画に基づき、まちなかに緑を増やし、魅力あるまちづくりを行うとともに、生物にとっても住みやすい環境づくりを行っています。

◎過去5年間の市内緑被面積の推移（累計）



緑の講習会参加数・グリーンカーテンコンテスト等への応募数

令和2年度の目標	令和2年度の結果
参加・応募者数 465人	参加・応募者数 265人



住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。長岡京市では、緑豊かなまちづくりを推進するため、（公財）長岡京市緑の協会と連携し、緑の講習会やグリーンカーテンコンテストなどを実施しています。令和2年度の講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施しなかったものもあり、参加者数は落ち込みました。

グリーンカーテンコンテストにおいては、家庭部門（12件）、団体部門（9件）の応募がありました。

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・既存公園の維持管理

令和2年度の目標	令和2年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.32m ²	住民一人あたりの公園面積 3.32m ²



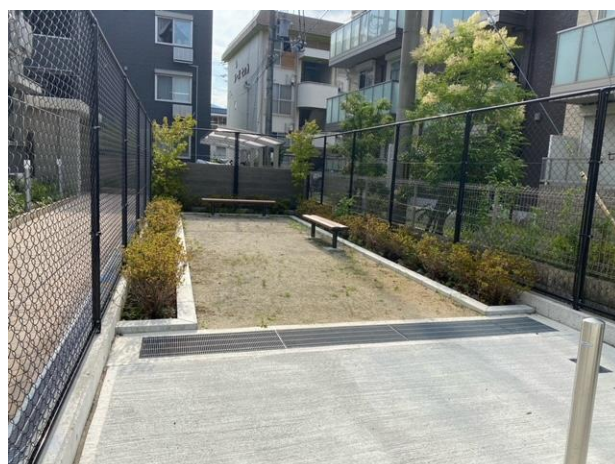
※参考：京都府下の平均 7.85m²（令和元年度）

本市は、市域が狭い上、約4割が西山に覆われており、自然公園や運動公園などの大規模な公園整備は難しい状況ですが、平成28年度には2.2haという広大な西代里山公園が完成しました。その他、令和2年度には、小規模ながら複数公園が供用を開始しています。

今後も市民が憩える公園づくりや管理に取り組んでいきます。



令和3年3月供用開始 下海印寺下内田公園



令和3年3月供用開始 セツ池下南公園

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

令和2年度の目標	令和2年度の結果
みどりのサポーター数 108 団体	みどりのサポーター数 100 団体



平成16年10月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路の掃除や植栽などを行うグループを支援する制度です。令和元年度は前年度と同団体数維持の、100のサポーター団体が市内全域で活動を展開しました。

緑の協会に登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草ではなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしていきたい。」など様々な思いを持って、令和2年度は1,411人のサポーターが活動しました。

(2)環境に配慮した都市の整備

①中心市街地における環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装の施工

令和2年度の目標	令和2年度の結果
長岡京駅前線第4工区の設計に反映	長岡京駅前線第4工区の設計に反映



歩道に雨水がたまりにくくする「透水性舗装」や都市のヒートアイランド現象の抑制につながる車道の「遮熱性舗装」は、環境に配慮した都市基盤整備と言えます。令和2年度は、長岡京駅前線第4工区（産業文化会館以西から阪急踏切を横断して数メートルまでの区間）の工事の設計に透水性舗装を反映しました。

阪急長岡天神駅周辺整備の検討

令和2年度の目標	令和2年度の結果
区画整理事業調査 【概略設計】	区画整理事業調査 【概略設計】



令和元年度に阪急長岡天神駅周辺のまちづくりについて、関係住民や地権者との連携のもと土地区画整理事業調査を行い、土地区画整理事業の実施が効果的と考えられる地区の抽出を行いました。

令和2年度は、区画整理事業調査を継続し、補助幹線道路や駅前広場について検討を行いました。

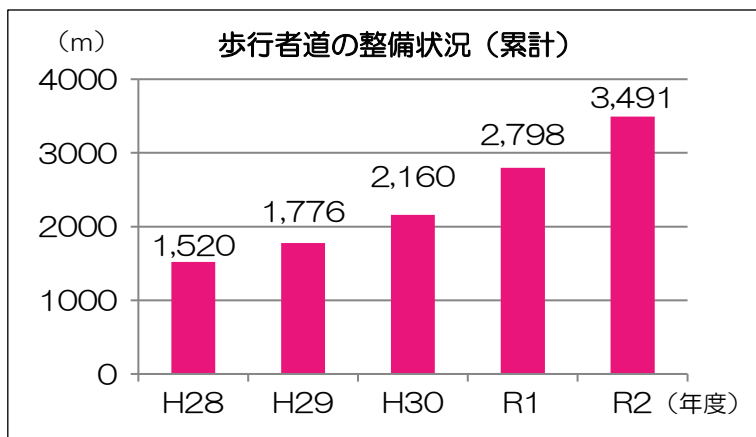
②歩行者優先の道路空間整備

歩行者道の整備

令和2年度の目標	令和2年度の結果
570m	693m

舗装復旧に併せ、老朽化の激しい側溝の改良により歩行者が歩きやすい歩道を確保するため、野添1丁目地区、開田2丁目地区、神足3丁目地区、高台西地区で合計延長530mを整備しました。

また、歩行者の安全性及び快適性を確保するため、長岡2丁目地区、下海印寺北条地区で合計163mを整備しました。



電線類地中化の推進

令和2年度の目標	令和2年度の結果
長岡京駅前線第4工区的设计に反映	長岡京駅前線第4工区的设计に反映

長岡京駅前線第4工区の歩道設計では、電線共同溝を設け、電線類地中化の自転車歩行者道（幅員4.5m）としました。

※電線共同溝工事とは…電線の設置・管理を行う2以上の事業者の電線を収

容するため、道路管理者が道路の地下に設ける施設であり、道路上にある電柱を撤去し、電力線・通信線を地下に収容することにより快適な歩行空間の確保、景観の向上を図ることを目的としています。



③個性ある景観の保全・形成

「長岡京市景観計画」の内容見直し

令和2年度の目標	令和2年度の結果
新景観計画に基づく景観形成ガイドラインの改訂	新景観計画に基づく景観形成ガイドラインの改訂

新景観計画の景観形成基準について、基準の考え方や実際の行為届出事例を参考に、写真やイラストを用いて分かりやすく解説するガイドラインの改訂を行いました。



(3)歴史文化資源の保全・活用

①歴史的名所の活用

神足ふれあい町家の活用

令和2年度の目標	令和2年度の結果
入館者数維持 (平成29年度現状値:18,939人)	8,247人



新型コロナウイルスによる施設の閉館及び事業縮小により入館者は前年度より減となりました。コロナ禍において、神足ふれあい町家のホームページでの情報発信の強化や、イベント期間を長く設定し、密にならない工夫を行った上で企画展を実施するなど、可能な範囲で神足ふれあい町家の活用を行いました。

②ふるさと資料館の整備

埋蔵文化財センターの啓発事業参加者数

令和2年度の目標	令和2年度の結果
参加者数 3,600人	参加者数 2,772人



新型コロナウイルスの影響により、例年実施していた発掘調査現地説明会や文化財講演会、調査成果報告会などは中止となり、施設の閉館も行いました。一方で、コロナ対策を徹底し、埋蔵文化財調査センターでの常設展示のリニューアルや特別企画展等を開催し、来場者は前年度より増加しました。

(4)環境美化の推進

①地域の清掃活動の促進

530運動参加団体への支援

令和2年度の目標	令和2年度の結果
支援継続	支援継続(45団体)



530運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分達の問題として考えようという運動です。5月30日(ごみゼロ)にちなんで、毎年この時期に、市内事業所や自治会なども参加して行っています。市では、この運動に参加していただく団体に、ごみ袋の配布や火ばさみなどを貸し出して、支援しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加団体数は減少しました。

②散乱ごみのない美しいまちづくり

美化パトロール・ワンワンパトロールの実施

令和2年度の目標	令和2年度の結果
環境美化推進員による 美化パトロール 1回/週 年間60日 夜間パトロール等における ワンワンパトロール1~2回/月	環境美化推進員による 美化パトロール 1回/週 年間60日 夜間パトロール等における ワンワンパトロール2回/月

ポイ捨て防止の指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。
回収したごみの量は、たばこ 18,812 本、缶・ビン・ペットボトル 635 本でした。



(5)適切な環境管理

①環境調査の推進

各種環境調査の実施・小畑川、小泉川の水質保全

令和2年度の目標	令和2年度の結果
基準超過件数の減少 (平成29年度基準値：12件)	基準超過件数 14 件
小畑川・小泉川 透視度：30 cm以上 BOD：2 mg/ℓ以下 PH：6.5~8.5の維持	小畑川・小泉川 透視度：共に 30 cm以上 BOD：小畑川 0.8 mg/ℓ 小泉川 0.6 mg/ℓ PH：小畑川 7.7 小泉川 7.8

市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。令和2年度の調査では、212 項目中 14 件で基準値を超過しました。毎年 10 件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。



②環境保全に係る啓発

生活環境向上のための啓発

令和2年度の目標	令和2年度の結果
広報紙への生活環境マナー 啓発記事の掲載	広報長岡京 2 回掲載 市ホームページ掲載

広報長岡京に啓発記事を 2 回掲載するとともに即時的な内容のものはホームページに掲載し、啓発に努めています。



5. 協働・環境学習・エコアクションの推進

環境ボランティア養成講座の延べ受講者数

令和2年度の目標	令和2年度の結果
受講者数延べ 130 人	受講者数延べ 88 人



(1)市民活動サポート機能の拡充

①市民活動サポートセンター機能の拡充

市民活動サポートセンターの管理運営

令和2年度の目標	令和2年度の結果
市民活動サポートセンター 団体登録数 185 団体 ネットワークに関する相談件数 延べ 70 件	市民活動サポートセンター 団体登録数 179 団体 ネットワークに関する相談件数 延べ 25 件



新型コロナウイルス感染拡大防止のための閉館期間等もあり、総相談件数も伸び悩みましたが、団体登録数は令和元年度よりも多い 179 団体となりました。ネットワークに関する相談件数は延べ 25 件となっており、目標に対して伸び悩んでいますが、様々な立場の方からの相談が増えており、市民活動の相談窓口としての知名度は上がってきていると思われます。

②各種団体・サークル等活動の支援

環境団体・サークル等の担い手発掘に向けての支援

令和2年度の目標	令和2年度の結果
ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通じた活動紹介	ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通じた活動紹介



ステップアップ・チャレンジ会議は省エネ推進チームと環境検定チームの二つが、省エネの啓発や環境意識の高揚に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、省エネナビモニター事業は、書面での参加者募集を行いましたが、応募がありませんでした。長岡京環境検定は、コロナ禍でも実施できる方法として、市ホームページを活用した実施を行いました。

③中間支援組織母体の立ち上げに向けたプラットフォームづくり

団体間連携の促進

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
交流会等の開催	イベントを通じた交流



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの催しが中止となる中、環境フェアを、ラジオ・市ホームページを活用し、オンエア・オンラインで開催しました。ラジオへの出演は、団体間での交流の機会ともなりました。

(2)環境を担う人づくり・人結び

①環境活動を担う人づくり

地域の環境活動を担う人材養成講習会・研修会の実施

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
受講者数延べ 130 人	受講者数延べ 88 人



例年 3 月頃に西山森林整備推進協議会主催で、森林ボランティア養成講座を開催しています。西山の取り組みについての紹介や、竹林に入っの整備作業を体験するもので、実施にあたり、市内の二つのボランティア団体にもご協力いただいています。令和 2 年度も、元年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

<教員向け>西山の自然を活用した環境学習のオリエンテーションの実

令和 2 年度の目標	令和 2 年度の結果
延べ 184 人	延べ 173 人



小学校で西山をフィールドとした環境教育を積極的に行ってもらうため、新任の教員や長岡京市に初めて着任した教員向けにオリエンテーションを実施しています。実地研修では、西山で活動しているボランティア団体の方に案内や説明のご協力をいただき、教員とボランティア団体をつなぎ、環境学習や遠足に活かせるよう、実践的な研修を目指しています。講習内容は、シカやイノシシ等野生生物の生態についてや、西山の自然観察等についてです。平成 24 年度からの累計で延べ 173 人の教員に参加いただいています。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を見送りました。

②グリーンコンシューマー活動の支援

③環境地域通貨の導入

環境に配慮した運営の事業所への啓発

令和2年度の目標	令和2年度の結果
環境に配慮した運営の 事業所への啓発	環境に配慮した運営の 事業所への啓発



広く事業所等に対しクールチョイス等の啓発を行いました。温暖化をはじめ環境問題の解決には、事業者を含めた多様な主体の取り組みが欠かせません。事業者がクールチョイスの取り組みを進めることで、結果として消費者にも、環境に配慮した消費行動をとっていただけるようになると思います。

(3)環境学習の推進

①環境学習の機会づくり

小中学校の環境学習の充実

令和2年度の目標	令和2年度の結果
各学年指導時間数 小学校 20 時間/学年・年以上 中学校 7 時間/学年・年以上	各学年指導時間数 小学校 12.7 時間/学年・年 中学校 13.8 時間/学年・年



環境学習は、全ての小中学校で実践されており、各学校で行われている環境に関する学習時間を合計し、一学年の平均学習時間を割り出しました。取り組み内容は学校により特色があり、学校農園による栽培活動、雨水タンクの活用、生ごみのたい肥化、ホタルの孵化活動、太陽光や水力などエネルギー学習、薪トープ火入れ式などです。

環境学習会等の開催回数・参加者数

令和2年度の目標	令和2年度の結果
開催回数 10回 参加者数 315人	開催回数 3回 参加者数 35人

出前講座（2回）を行ったほか、長岡京環境検定を、市ホームページを活用して行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの事業を中止する結果となりました。



SDGsとごみ問題を考える出前講座

放課後子ども教室（環境活動体験）、市民企画講座（「環境」テーマ分）等の実施

令和2年度の目標	令和2年度の結果
参加者数 200人/年 講座数 1件/年	参加者数 31人/年 講座数 2件/年

放課後子ども教室は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催は見合わせましたが、教室再開に向けたガイドラインの作成などの準備を進めました。

市民企画講座は、その名のとおり市民が主体となって企画するものであり、令和2年度は、「竹の魅力をもう一度見直そう」と「親子で里山を楽しもう!」の2講座を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者数は制限せざるを得ませんでした。参加応募は定員を上回る結果でした。



②西山を活用した自然体験学習の推進

西山ファミリー環境探検隊の実施

令和2年度の目標	令和2年度の結果
4回・100人参加	0回 ただし記念紙を発行

西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう中で、西山への理解を深めてもらい、環境保全意識の高揚を図ろうとするものです。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4回全て中止を余儀なくされましたが、代わりに、西山ファミリー環境探検隊が50回を迎えることを記念して、記念紙を製作しました。記念紙は事業の啓発等に活用しています。



西山ファミリー環境探検隊の記念紙

西山を活用した環境教育の実施

令和2年度の目標	令和2年度の結果
小学校 10 校	小学校 4 校



春の遠足では、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、全 10 校のうち 4 校が西山周辺や西山キャンプ場へ自然観察などに行きました。遠足を通して、本市のシンボルである西山や、自然環境について理解を深めることができました。

薪ストーブを設置している神足小学校では、西山の間伐材の薪を割る体験を行ったほか、その薪や、着火に適した柴用いて、薪ストーブの火入れ式を行い、昔の人が実践していた里山と人との関わり方について勉強しました。

③環境啓発型イベントの開催、イベントへの出展

環境フェア・長岡京竹あそびなどのイベントの実施

令和2年度の目標	令和2年度の結果
参加者数延べ約 8,600 人／年	参加者数延べ 37 人 ただし環境フェアを オンエア・オンラインで実施



令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの事業の中止を余儀なくされました。6月のホテル観賞のタベ、9月のサポセンフェスティバルは、例年多くの来場者がありますが、中止となっています。

比較的小規模のイベントとして、8月の打ち水大作戦は、感染対策を徹底した上で実施し、37人の参加がありました。

また、コロナ禍でもできるイベントの形として、例年秋に行っている環境フェアについては、コミュニティラジオ「FM おとくに」と市ホームページを活用し、オンエア・オンラインでの開催を実現しました。慣れない実施方法ではありましたが、参加者からは、「参加しやすい」などの好評を得ました。従来の会場型の実施方法であれば、会場に足を運んでいただかないと啓発が届かないということになりますが、今回のラジオ・市ホームページでの開催により、これまで啓発できなかった層への啓発ができたのではないかと評価しています。

今後は、コロナ禍以後も、今回の実績を生かし、多様な発信方法を併用することを考えていきたいと思っています。



ラジオによる環境フェアの様子